

令和4年度 第1回高山市環境審議会 議事要旨

日 時 令和4年6月29日(水) 午前10時～12時

会 場 高山市役所4階 特別会議室

出 席	大森 清孝	国土交通省 自然環境アドバイザー
	蒲池 謙治	一般財団法人岐阜県公衆衛生検査センター環境部次長
	小林 正直	環境省 自然公園指導員
	表 英代	高山市教育研究会
	中村 健史	高山市民憲章推進協議会長
	田中 君代	高山市農業委員会委員
	河渡 正暁	高山市快適環境づくり市民会議委員長
	中川 正	高山市森づくり委員会委員
	中田 和子	高山商工会議所女性会長
	寺田 俊明	荘川町まちづくり協議会長
	田口 章吾	中部電力パワーグリッド(株)高山営業所長
	加藤 直樹	濃飛乗合自動車(株)取締役管理部担当
	山田 和宏	岐阜県飛騨県事務所環境課長
欠 席	井上 博成	飛騨高山小水力発電(株)代表取締役
	今井 久和子	高山生活学校代表

計13名

事務局	高山市副市長	西倉 良介
	環境政策部長	小林 一正
	環境政策推進課長	山郷 三昭
	環境政策推進課環境政策係長	小野 貴史
	生活環境課長	松井 ゆう子
	ごみ処理場建設推進課長	山腰 勝也
	資源リサイクルセンター所長	谷口 直也

- 次 第
1. 開会
(市民憲章朗唱)
 2. 副市長あいさつ
 3. 新委員紹介
 4. 議事
(1)令和4年度の環境施策について【資料1】
 5. その他
 6. 閉会

1. 開会 (市民憲章朗唱)

2. 副市長あいさつ

西倉副市長

3. 新委員紹介

西倉副市長より3名の新委員を紹介、委嘱状交付

4. 議事

(1) 令和4年度の環境施策について

事務局(山郷環境推進課長)より、資料1の説明

質疑応答の内容は、以下のとおり

(加藤直樹委員)

今回の令和4年度の主な環境施策について、事前に配付いただいた資料で拝見した。

新規事業の指定文化財保存修理事業について、市内に県や国指定の天然記念物もかなりあると思うが、保存修理樹木の選定には、いろいろ基礎調査をされた上でどの様に選定されているのか。高山市に在住して1年になる。春は桜、秋は紅葉など四季を通して高山の名所を拝見した。非常に良い観光資源と実感している。西光寺のしだれ桜は、これが京都にあれば、1,000円くらいの拝観料をいただくとしても、桜開花期間中に何万人も訪れるほどの見事なものである。しかし、樹齢のため衰えが少し気になる。保存し、再生樹勢回復を促すことを行っているのか。清見町大原の春日神社に藤の社叢という県の指定天然記念物がある。非常に荒れ果てている。地元の方に聞き取りしたところ、県の指定天然記念物だが、地域の方がボランティアで手入れをされているだけの状況である。朝日町青屋の神明神社の桜も見事だと思う。保全協力金のようなものをいただき維持するなど、観光の視点から検討する必要があると思う。

高山市内には、いろんな名所がたくさん存在していると思う。貴重な観光資源になり得るし、拝観料などを徴収する仕組みを検討し、県や国指定の天然記念物を積極的に保存修理してほしい。

(環境政策推進課 山郷課長)

文化財課において、市内の天然記念物や指定文化財等から調査の上、予算額や規模に応じて選定をしたと、原課には確認をしている。

保全協力金や拝観料について、四季折々の樹木、桜など、地域の自然財産の魅力をしっかりと発信し、ご覧いただいた方に協力いただき、地域資源を守っていくことについて、貴重な意見として伝えたいと思う。

(西倉副市長)

新規事業の令和4年度指定文化財保存修理事業で樹勢回復工事をしている国指定天然記念物の臥龍桜は、桜の開花時期に桜を見に来た人が、桜の根を踏むため樹勢が弱っている。保護エリアを広げて土壌改良し、樹木師による鑑定により、再生を期すことで臥龍桜も回復していくと思う。国、県、市それぞれの補助金等を有効に活用させていただいている。協力金や拝観料が、どのような形で扱えるのか考えさせてもらいたいと思う。東山の寺院群を無料で拝観できるツアーを組んで、濃飛さんと協力し、ご朱印帳等付

加価値をつけて料金をもらうなどし、協力金をいただく取組みを試行錯誤している。観光客や市民の皆さんが憩える場で、おもてなしの取扱いをしているので、参考にさせてもらいたいと思う。

(小林正直委員)

令和4年度の環境施策については、山に関することが非常に多い。私自身は、普段からお客様へ案内所で乗鞍などの案内等をしている。

環境省の登山道整備に対する補助は、利用者に負担を求めたものが多い。岳沢湿原は、補助事業を使った自然工法を取入れ、非常によく整備された道だった。

また、4月から利用者向けに、長野県と松本市が発行された上高地防災マップの配布を始めており、利用者が現地で、知りたい危機管理情報を網羅している。自然公園指導員の立場として、一番大切な業務は、事故防止の普及啓発であると思う。上高地防災マップの内容は、上高地で行われている治山事業はどのようなリスクがあるかや、リスク評価では、気象条件や状況等に応じた危険度ランキングを示している。上高地にアクセスする釜トンネル道路の雨量による通行規制、災害発生の危険箇所、災害の危険リスクや通行止めの可能性、焼岳の火山防災なども網羅されていて、火山防災噴火警戒レベルが上がった場合の行動指針も記載されている。ツキノワグマに対するリスクについては、啓発部分を一部、配布用にまとめそれぞれの項目ごとに分けて記載されていた。

御嶽山の国立公園化を高山市も推進してくということもあり、乗鞍も乗鞍ライチョウルートという形で長野県と岐阜県を貫通するルートをPRしていく中で、利用者が知るべき情報を伝えていく必要がある。

私が利用者の立場だったとしても、その情報が一番知りたい。現地の防災マップによって、リスクマネジメントを意識することで山の行動時に役立ち、地形や状況を把握することで、ジオのことも詳しくなる。上高地防災マップは、崩壊しやすい地形地質が、危険リスクと共に書いてあった。

中部山岳南部地域の活性化、さらに御嶽山や、ジオパークの推進についても、利用者が安全に楽しんでもらうという観点で網羅的な防災マップを作ることは、自然環境保全だけでなく、利用環境という目線で非常に重要であると思っているが、高山市で策定中を含めそのような計画はあるか。

(環境政策推進課 山郷課長)

ジオパークの取組みでは、地形地質の成り立ちと災害、地形の特徴に応じた植生など、いろいろなものが繋がっているということで、利用者へ災害危険箇所リストや、防災情報を取りまとめて冊子にしている。

また、登山に関しては遭難を防ぐため、各登山道の難易度を示す資料、乗鞍や五色ヶ原それぞれのエリアに応じた資料、パンフレットなどを準備し、利用者の安全を守るための視点でベストな周知方法について、今ほどいただいた意見や、他地域の資料も参考に検討したいと思う。

中部山岳も白山も御嶽山も、それぞれエリアが広く、利用者の安全を守るための視点でベストな周知方法で、資料を作ることは重要である。保護と利用という両側面をしっかりと伝えていきながら、安全に多くの方に楽しんでいただけるような視点を持って検討したいと思う。

(小林正直委員)

確認だが、現状は乗鞍スカイラインの場合雨量規制の対応は県土木であり、雨で通行規制になった場合、県土木が受託業者に依頼して、受託業者が周知するという状況である。その対応が非常に不親切で、リスクマネジメントが出来ていない状況で、事故が起きてから処理、事後対応という形である。

利用者が、現地にお越しいただく前や、現地に到着した際の行動の判断基準となるような呼びかけや

PRを、高山市や岐阜県や中部山岳国立公園活性化推進協議会等が、啓発促進していくことが必要だと思った。

(環境政策推進課 山郷課長)

乗鞍スカイラインを例に挙げると、雨量規制の過去の経緯や情報を多くの方は知らない。乗鞍に限らずそのような状況が多い。道路の通行止め一つにしても、それぞれの所管ごとで情報を公開しているが、一度に網羅し確認することができない等いろいろな課題がある。所管ごとの情報共有、情報発信を含め引き続き検討する。

(加藤直樹委員)

利用者の利用環境を守っていくという観点から、乗鞍スカイラインがヒルクライムの聖地で、近年非常に自転車の利用が多く、バスの運転手からヒヤリハットが続出している状況である。

ハード面では、カーブミラーの設置等、いろいろ制約がある中、検討中と聞いている。

施設を使う上で利用者が安全、快適に利用できるよう、ある程度のルールの整備をしていただきたい。大きな事故が起きる前の対応が必須である。

5月に開山したが、自転車の利用が非常に多い。安全に留意してバスの運行を行っているが、自転車のガイドライン等を出来るだけ早く整理いただきたいと思っている。

(環境政策推進課 山郷課長)

ここ最近乗鞍スカイラインは、全体の入り込みが減ってきた中で、自転車の利用者が増えてきている。一時は、乗鞍スカイライン利用者が増えてありがたいと感じていた。しかし、利用者のメインが自転車に移動している傾向があり、濃飛バスやタクシー運転手が現地を熟知し、注意して走行いただいているおかげで、大きな事故がない状況。他地域から来るバスの自転車事故などに対して非常に心配している。今年度、乗鞍自動車利用適正化協議会として、自転車利用者に対する啓発看板を、乗鞍スカイラインや乗鞍バスターミナルと呼ばれる豊平山頂の施設等に3ヶ所設置し、注意喚起を実施したところである。

また、現在調整中だが、7月5日と21日には、岐阜県飛騨事務所や高山土木事務所と高山市の関係者で現状を把握するためのパトロールを行う予定であり、自転車走行の状況について把握し、啓発看板や注意看板等をどこに設置した方が良いか、危険箇所の確認を行い、今後対応していくよう検討を進める。道路管理者や行政関係者だけではなく、地元の観光団体や、自転車利用者にも危険箇所を同じ意識を持って通行していただかないと、委員が言われたように、事故が起きて通行止めというような事後対策になってしまう。

毎年開催している乗鞍フォーラムは、多くの方に参加いただき乗鞍スカイラインおよび乗鞍の状況を知っていただく機会となっている。今年は、安心安全な自転車の通行をテーマとすることで、現在調整を進めている。整ったところで皆様にご案内したい。自転車利用について、今後も重要課題として検討を進めているので、ご指導やご意見を賜りたい。

(大森清孝委員)

ジオパークが法人化したのが、全国各地にジオパークがある中で、ジオパークは非常に運営しづらく、どの地域のジオパークもずいぶん運営など苦労している様子である。地質的な要素をメインにしている全国のジオパークを見てきたが、成功しているところは、どのような情報発信をしているのか調べたところ、俯瞰

的な映像をたくさん撮っていた。上空からの映像を提供することで、全体像が見渡せてイメージしやすい。(一財)飛騨山脈ジオパーク推進協会も、工夫していただくよう提案したい。

飛騨山脈というと、ジオパークというよりも世界遺産レベルの山脈という認識である。日本にある世界自然遺産は、知床や屋久島もあり、富士山は、自然と文化の複合遺産。飛騨山脈は最上級の自然遺産だと思う。先にジオパークにしてしまうと、位置付けが固定してしまうのではないかと懸念する。飛騨山脈のジオパーク化は、自然遺産を目指していく中でのワンステップだという位置付けを明確にしたほうがよい。

次に、自然エネルギーに関する件について、全国各地でマグニチュード 5 を超える地震があり、マグニチュード 4 を超える地震が、頻繁に起きている。東海地震や東南海地震の前触れではないかということは、ずいぶん前から言われている。防災的な場面で、自然エネルギーを生かしてほしい。避難所に指定されている施設、学校や公民館等に関しては、優先的に太陽光パネルや蓄電池を設置し、3 日間くらいは生活ができるだけの電力を整備してほしい。市役所等は司令塔になる役割があるが、市役所の屋上に太陽光パネルがないのは、非常に残念に思う。優先的に太陽光パネルや蓄電池を設置するなどの整備を方針に加えて欲しい。

(環境政策推進課 山郷課長)

ジオパークについては、委員発言の通りジオパークという言葉だけでは、馴染みがなく、分かりにくいということを意見として伺っている。地形地質や石や化石といったものが、飛騨山脈には国内外に誇るべきものがたくさんある。しかし、それだけではなかなか馴染みにくいのが現状。新穂高ロープウェイ、乗鞍スカイライン、五色ヶ原の森等、既存の観光施設や観光資源、山岳信仰を含む歴史、文化、伝統、そして食、それら地域の特徴を探り、飛騨山脈の成り立ち等の色々な情報を繋ぎ合わせることで、この地域の魅力を知り、この地域を好きになるような思いも込め、改めてジオパークに力を入れる。

世界ジオパークは、世界自然遺産と同じようにユネスコの認証した制度であり、世界自然遺産指定を望む声も伺っている。一方、白山ユネスコエコパークと同様に豊かな自然があるので、エコパークにしたらどうかという意見もある。高望みかもしれないが、それらを理想として掲げながら、この地域の皆さんが持続的に生活していけるような仕組みも併せ、ジオパークの活用を念頭に取組みを進めたい。

また、再生可能エネルギーの活用については、先ほど説明したとおり、自家消費型太陽光発電および蓄電池の導入補助金について準備を進めている。これまでは FIT と呼ばれる固定価格買取制度で電気を作って売る事業、商売として行われる取組みがあったが、先ほど中部電力パワーグリッドからも話があったように、現状は電力がひっ迫している。高山市も近年、大規模災害による長期間停電で、苦労した家庭等もある。その体験を生かし、いざという時に対応できることが重要である。住宅に自家消費の太陽光発電と蓄電池設置することで、自分の家や家族を守っていくことを主として、整備方針を考えていきたい。

岐阜県は、同じように事業所へ補助も検討している。県と市の補助をセットで進めていく。

避難所の太陽光発電については、既に20ヶ所以上の拠点となる避難所に太陽光発電や蓄電池を設置している。それらも引き続き、災害の時に最低限の電気を確保し市民が安全安心に、生活できることを念頭に引き続き検討したい。

(環境政策部 小林部長)

ジオパークについて、初めて聞くとなかなかイメージが付きにくい方が多いと思う。古代何万年も前の地球誕生の結果として出来上がった珍しい地質や遺跡等を調査し、貴重であることを PR し地域活性化に結びようとしている。大森委員の言うように分かりにくいところもあると思う。

先ほどの質問の趣旨は、ジオパークについて、皆さんに分かりやすく興味を持っていただくために、映像的に見せたらどうかという提案だと受け止めている。今まで収集した文献や写真で、ジオパークの活動を映像化し、環境学習等に相互に役立てて行けるよう、NHK が取材した映像データを活用できる様 NHK の協力を得て、映像でジオパークを紹介する業務を手配している。完成次第、ご視聴していただく機会があるかと思う。世界的に貴重な山脈、地形地質等を映像で紹介し、皆さんに親しみやすく、分かりやすくしているという取り組みを進めている。

また、太陽光発電を載せられる避難所については対応済だが、送電が止まった時、太陽光だけ電気供給を持続させられるのかという課題もある。技術が発達し、蓄電池で電気を地産地消するという発想もあり、蓄電池を設置できる補助を今年から始める。

新ごみ焼却場では、自家消費で余った電気を他の施設に送る。避難所に蓄電池を設置する等、発展的な対応を考えている。電気の地産地消が確立できるようなネットワークも取り入れていきたいと考えている。

(蒲池謙治委員)

ファッションと環境については、環境基本計画体系図の循環という部分に該当する。高山市の環境基本条例にもあるが、環境基本計画は環境を保全する計画で、保全とは保護して安全にするといった計画だと思ふ。流行の服ととらえるとファッション産業は、非常に環境負荷の高い産業だと指摘され、今、国際的な課題となっている。理由として、服を作る材料を調達するために、綿であれば綿花を育て収穫する。ナイロン等の合成繊維であれば、石油を燃料にする。その後、紡績で糸にして布にする。更に、染色の染料は植物や薬剤を使い、水を大量に消費して布ができ、裁断縫製等の工程を踏んでやっと服という製品が出来上がる。

服一着作るのに、25 キロの CO₂ が出ると言われている。水は 2,300 リッターを消費するとされており、大きな環境負荷になっていることが分かる。ライフサイクルが短い流行の服の製造は、ほぼ海外で行われ、98%が海外からの輸入と言われている。日本国内では、製造後、利用し廃棄されるというフローであるが、この流行の服は、1シーズンか2シーズンで捨てられてしまう。現在のファッション産業は、大量生産、大量消費、大量廃棄の一方通行型のフローである。適量生産、適量利用、循環利用等の循環型のフローにする取り組みを、持続可能なファッション(サステナブルファッション)という形式の取り組みを高山市でも取り入れていけば、環境保全に繋がると思う。この取り組みは SDGs のターゲットの 12 番「つくる責任つかう責任」にも繋がっていく。SDGs の視点もあって良いと思う。

(環境政策部 小林部長)

ファッション、服がそれほど地球に負荷を与えていると聞き驚いた。高山市の廃棄物事業では、服に限らずできるだけリサイクルに取り組んでいる。ペットボトルから服ができたりするので、資源として積極的にペットボトルも収集している。服については、今まで化学繊維等は集めずに、可燃ごみとしていた。今後は、できるだけ使えるものは収集するよう、資源物拠点集積場等で集めて利用する取り組みをして行く。服は可燃ごみとして捨てられることが多いが、海外途上国へ支援として寄付する取組みも行っている。

先週の土曜日にフリーマーケットを行った。不要になった衣類をフリーマーケットで安く売るような取組みを快適環境づくり市民会議でも行う等、できるだけ様々な物のリサイクルに取り組みたい。服についての環境負担の認識が若干甘かった。皆さんにも是非お知らせし、可燃ごみとして燃やさず必要としている人に譲るリサイクルすることに協力していきたい。

(中村健史委員)

環境について、具体的に一個人として何ができるかという大きな視点があり、二つ同時に考えていくべきだと思っている。知らなかったことを知るにより触発され、アクションに繋がること。環境を守っていくことを継続し、次世代へ繋げることが、快適で好ましい環境に変わっていくことだと思う。

大森委員の説明にもあった太陽光発電による蓄電について、私は、南まちづくり協議会の防災委員会の委員で、防災士の資格も持っている。地区防災を考えたとき、いざという時に電気がないと困る。発電機は、燃料で稼働させてもわずかな時間なので、太陽光発電による蓄電が必要というような話題が出る。市の対応、考えを伺いたい。

また、市民が防災について提案した事の対応について、市の事業を市民に説明や周知する際に説明して欲しい。補助金の内容は、事業の目的をしっかりと説明して欲しい。

市内の小中学校に太陽光発電を設置しているが、構造的に屋上等に設置できない学校もいくつかある。避難所として機能的に対応し得るかどうかを考えていくべき。防災や環境の観点から高山の街の未来をイメージする必要がある。

3R について、家にあるものを処理したい時メルカリのアプリで、不要なものを売買できる方法がある。ただ、全ての人がやるわけではないので、写真を撮って情報を公開し、情報を見て欲しい人が購入する。市内でも不用品を収集するサービスや収集場所、機会があると良い。

リサイクルショップでは、50 円、100 円でも買ってくれるが、実際は持っていくことが大変。売れるかどうか分からないと受け取らないリサイクルショップもあり、結局ゴミとなる。リサイクル、リユースを啓発し、ゴミ減量化に繋げてほしい。

(環境政策部 小林部長)

避難所が停電になった時の対応等、意見を今までにもいただいている。防災等は危機管理課が所管対応している。一時避難所が急傾斜であるなど、危険な場所にある場合もある。

たとえば、これから作る新ごみ焼却場は、高台で水害の心配がなく、崖崩れの心配がない。地盤も良くて土地も広く、24 時間焼却で発電できる。避難所として利用することができ、周辺が停電でも稼働できるという強みがある。

また、防災の備蓄品がある。このような政策でごみ焼却場の建設に向かっている。これからは、各避難所等の整備について、今は発電機等でバックアップしていると思うが、蓄電池等の技術発達や電気自動車で給電するようになってくると思う。そういったことを視野に、蓄電池によるバックアップを進め、各避難所等での危機管理を考えていきたいと思っている。

今までに、メルカリを市で仲介してほしいという意見もあった。現行は、リサイクルセンターへ持ち込みしていただき、受け取ってから修繕して、リフォーム製品として販売している。新しいリサイクルセンターでは、リフォームができるような場所を設け、リサイクル、リユース品を展示できるスペースを設けていく。メルカリは個人同士の取引であり、間に市が入るのは難しい。DX 等様々なことを視野に入れつつ、リサイクル、リユースを啓発し、捨てずに使いたい人に渡していくことで減量化に繋げていく。

(西倉副市長)

いろいろお気づきの視点から、具体的に留意する点等の意見をいただき、令和 4 年度に取組みたいと思っている。全部完璧にやりきることは難しい。まだ不十分な部分もあるので、皆様からの意見をいただきたい。

本庁舎は防災拠点であり、太陽光発電をして蓄電池も設置する必要がある。本庁舎は平成 8 年に建てられ、当時としては環境面で非常に優れたものだった。上の方に空気が循環する設計で、夜間、冬場は温かい空気をためることができ、夏場は熱を上から逃して自然換気し、午前中は冷房を入れなくても済むような対策であるが、近年、極端な暑さのため自然換気で熱が逃げない。太陽光パネルの設置も検討したが、荷重が耐えられず設置出来なかったのも、それ以外で出来ることは行った。

現状を市民にも分かっていた上で、何が出来るのかを一緒に考えていきたい。今後も皆様から忌憚のないご意見を賜り、私も真摯に受けとめ、一緒に環境に優しいまちづくりを進めていきたい。

(河渡正暁会長職務代理)

SDGs の 12 番目の「つくる責任つかう責任」を目標にしなければならないと思っている。

松井課長と一緒に昨年、市民会議にごみ減量化部会を作り、スーパーの関係者と料理屋等プラスチックを扱っている業者と市民との中で、高山市のゴミ削減を目指している。今は、意見聴取の段階で、今後の私達の課題も大きいと思っている。

昨年、一昨年から、高山市の未来の姿について、自然がもたらす恵み、先進的な脱炭素社会を作ることがテーマだと思っている。飛騨はジオパーク、御嶽山など自然が豊富で広大である。

(西倉副市長)

大きな意味では脱炭素社会、地球規模での取り組みを進めたいと思う。

それぞれの事業が有効であるか審議し、状況に応じて目指す姿、目的意識を共有して様々な取り組みを積極的に進めたいと思っている。

5. その他

(環境政策推進課 山郷課長)

資料説明(別紙1、別紙2、別紙3)

(ごみ処理場建設推進課 山腰課長)

ごみ処理場建設 概要説明

(岐阜県飛騨県事務所環境課 山田課長)

ゴミ拾いアプリ“ピリカ”紹介

(生活環境課 松井課長)

ごみの減量化の取組について紹介

6. 閉会

(環境政策部 小林部長)